

マイフーズ ～お米博士になろう～

目 標

- ・島田農園での「田植え」「稲刈り」体験、校内での「脱穀」「精米」体験、収穫祭としての「おにぎり、煎餅作り」体験など、「ものをつくる・育てる」という直接的な体験から、その苦労や工夫を実感するとともに、農業や自然への畏敬の念をもち、食糧生産の重要性に気付く。

育てたい力

- 消費者だけでなく、生産者側の立場になって考えたり、今までの価値観を見つめ直したり、物事を多角的に見ることができる力。
- 栽培体験を通して、生産者の苦労や工夫を体感しながら、様々な問題を乗り越えていくことができる力。

主な学習活動（田植え・稲刈り・脱穀・精米：10 時間、お米新聞作成：10 時間、収穫祭：4 時間）

田植え・
稲刈り体験
(6 月・9 月)

- ・6 月には、稲の苗を一つ一つ手で植える活動を通して農家さんの苦労や、米作りの大変さに気付いた。
- ・9 月には、同じく手作業で稲刈り体験を行った。刈った稲は、輪ゴムで適量分量で束ね、乾燥させるために干すまでを行った。



お米新聞作成
の授業
(6～7 月)

- ・田植えの活動を通して、米について興味をもった。そこで、総合的な学習の時間を利用して、「お米博士になろう」という大きなテーマの下、「お米新聞」を作成した。



脱穀・精米
体験
(11～12 月)

- ・12 月には、農園から稲刈りの時にいただいた稲を手作業で脱穀・精米体験をした。



収穫祭
(12 月)

- ・収穫した米を炊いておにぎりにしたり、煎餅にしたりしておいしくいただくまでの一連の活動に取り組んだ。

取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「米が八十八の手間暇から作られていること、それが米という字の由来だったなんて知らなかった。」「これからは米一粒まで大事にして食べていきたい。」「なかなかできない体験ができてとても嬉しかった。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

普段何気なく食べている米や、さらには食に対する意識が、この活動を通して少しずつ変化した。多くの手間をかけて作られていることを知り、大切に食べていきたいという気持ちが強まった。また、農作業に対して大変だというイメージが強かったが、実際に体験してみると興味をもった子がいた。

体験先、関係機関

島田農園（恵庭市）